

令和3年度体力づくり推進計画 ＜全体計画＞

東広島市立西条小学校

達成目標

- 体育科授業において、多様な運動を経験することを通して、児童の巧緻性を育成する。
- 体育的行事を通して、体を動かす楽しさを味わわせ、運動好きな児童を育成する。
- 外遊びを定着させることで一日の運動量を確保し、健やかな体をつくる。
- 新体カテストの全国平均を上回る項目数を前年度より増やす。

学校の状況

- ・市中心部にある大規模校で、児童数 1000 人を超えている。
- ・運動場はプレハブ校舎が建てられて若干狭くはなっているが、運動するには十分な広さである。しかし、全校児童が同時に外遊びをするには狭い。

児童生徒の運動・生活習慣の実態

- ・外遊び児童数の平均は、400～600 人程度である。
- ・クラスマッチに向けて練習する時期には、外遊び児童数は800人以上になる。
- ・朝食をとっていない児童の割合は、11%である。

広島県体力・運動能力、運動習慣等調査結果との比較から

※令和2年度は調査未実施だったため、令和元年度の結果を分析することとする。

男子

- ・「50m走」「ボール投げ」において、県平均かつ全国平均を下回っている学年が多い。

女子

- ・「50m走」「ボール投げ」において、県平均かつ全国平均を下回っている学年が多い。

- ・女子の記録が県平均かつ全国平均を下回る種目が多い。

実態把握

児童生徒の実態や体力・運動能力調査等から明らかになった課題

- ・放課後に運動部に所属し、生活の中で十分に体を動かしている児童と習い事でほとんど体を動かしていない児童とに分かれるといった二極化の傾向がある。
- ・児童に運動時間や運動量を確保させるために、体育の時間において運動量を確保したり、休憩時間で外遊びを推奨する工夫をしたりする必要がある。
- ・児童に家庭でも運動をさせるために、体育的な家庭学習を出すなど、生活の中に運動する時間を計画的に位置付けることが大切である。
- ・運動の苦手な児童が意欲的に運動できる場や活動の工夫が必要である。
- ・朝食をとらずにいる児童の割合が大きい。家庭や栄養教諭と連携し、啓発を積極的に行う必要がある。

取組事項

- ① 体育科の授業改善（体力づくり推進リーダーを中心に学級担任へと拡げる）
 - ・運動量の確保と運動する楽しさを味わわせることに重きを置く。そのために、体育専科を中心として、シラバスを活用した授業計画をするとともに、場の設定や用具を共有する。
- ② クラスマッチの開催
 - ・「高台カップドッジボール大会（第1回クラスマッチ）」低・中・高の発達段階に応じてドッジボールの内容を工夫し、体育委員会で啓発・準備等を行い、目標をもってボールを投げる力が向上するようにする。
 - ・「なわとび大会（第2回クラスマッチ）」低・中・高の発達段階に応じて内容を工夫する。
- ③ 外遊び推奨の取組（保健・安全・給食部で組織的に行う）
 - ・外遊びの時間の確保（週1回のロング昼休憩）や安全な遊び場の設置、遊具の充実など、全児童に運動量を確保するための取組を組織的に行う。
- ④ 食教育の推進（栄養教諭を中心に校内に拡げる）
 - ・食事や睡眠を中心に自分の生活習慣を見直すことを通して、自分の健康実態に関心をもたせるようにする。
 - ・年1回の食育授業を行ったり学級懇談会で食育を話題にしたりし、生活を改善することについて保護者への啓発を積極的に行う。

期待される効果

- ・日常的に体を動かし、運動が好きな児童が増える。
- ・外遊びが活発になり、運動量が確保されて児童の体力向上につながる。
- ・体を動かす時間の増加により、十分な睡眠時間が確保できたり、食事を摂取することの促進も期待できたりして、生活習慣の見直しにつながる。
- ・ボール投げの記録の向上や体の柔軟性の向上が期待できる。

体制

- ・体力づくり推進リーダーを責任者とした「体力アップ推進チーム」を構成する。メンバーは、保健主事、体力づくり推進リーダー、各学年から1名で構成する。
- ・各学年の体育科担当者は、体力づくり推進リーダーに授業内容を相談し、場の設定や運動の仕方などについて連携する。

推進組織

令和3年度体力づくり推進計画 <年間指導計画>

東広島市立西条小学校

達成目標

- 体育科授業において、多様な運動を経験することを通して、児童の巧緻性を育成する。
- 体育的行事を通して、体を動かす楽しさを味わわせ、運動好きな児童を育成する。
- 外遊びを定着させることで一日の運動量を確保し、健やかな体をつくる。
- 新体力テストの全国平均を上回る項目数を前年度より増やす。

